

参加対象 教員、社会教育関係者、NGO関係者、教育や子どもに興味のある方  
定員 60名  
参加費 7,000円(2日間)

なお、なるべくゴミを出さないようお願いします。お弁当を持参いただける方はご用意くださるようお願い致します。

■ 文京区区民センター(6月1日)ー

JR

●水道橋駅 出口(東口) 徒歩10分

地下鉄

●丸ノ内線 後楽園駅 徒歩1分

●南北線 後楽園駅 徒歩1分

●都営大江戸線 春日駅 徒歩0分 出口(A2)

●都営三田線 春日駅 徒歩0分 出口(A2)

■ 文京区シビックセンター(6月2日)ー

JR

●水道橋駅 出口(東口) 徒歩10分

地下鉄

●丸ノ内線 後楽園駅 徒歩1分

●南北線 後楽園駅 徒歩0分

●都営大江戸線 春日駅 徒歩0分

●都営三田線 春日駅 徒歩1分

主催 ERIC 国際理解教育センター

■開催日程 2002年6月1日(土)~2日(日)

■会場 6月1日: 文京区区民センター 東京都文京区本郷4-15-14 TEL:03-3814-6731

6月2日: 文京区シビックセンター 東京都文京区春日1-16-21 TEL:03-3812-7111

後援(予定) 文部科学省、ユニセフ、(社)日本ユネスコ協会連盟、東和大学国際教育研究所、  
帝塚山学院大学国際理解研究所、開発教育協議会、日本国際理解教育学会

◎参加ご希望の方は、別紙の申込書にご記入のうえ、下記の住所宛にお送りください。また、参加費は指定の郵便振替口座にお振り込みください。

〒114-0013 東京都北区東田端1-14-1 岩瀬ビル ERIC「グローバル・セミナー」係

TEL:03-3800-9415 FAX:03-3800-9414 e-mail:eric-net@try-net.or.jp

参加費用振込先 郵便振替口座:00180-8-710744 加入者名 ERIC事務局

(通信欄に「グローバル・セミナー」と明記してください)

# 2002.6.1-2 SEMINAR

国際理解教育研修プログラム「グローバル・セミナー」開催のご案内

# GLOBAL

## 〔開催趣旨〕

### ■「生涯学習社会の実現に向けて」

ERICのグローバルセミナーも今年で13回目。今年のテーマはERICが「学びつづける社会」としてその実現をめざしている「生涯学習社会」です。

生涯学習社会とは、なんだか大人のためのものに聞こえてしまいがちですが、もっと総体的に、人権尊重社会の実現に向けて、一人ひとりが学びつづける社会風土のことをいうのではないのでしょうか。平和的に民主的に共通の課題について学び、よりよい社会を築く生涯学習社会の基本は、学校教育において培われる必要があります。社会的課題を自らの課題とする力、参加する力、学ぶ力、そのような力につながる民主的スキルの育成を体系的・継続的に行なえるのが学校教育であるからです。

めまぐるしく変化する社会の中で、共通の課題について平和的に問題解決をめざし、共に学ぶことによって共に生きる。そんな社会の実現に向けて、学校はどのように応えていけばいいのでしょうか。地域・社会の構成員として、どのように連携・支援していけるのでしょうか。ERICは、参加型学習は民主的スキルの育成に向けた学習法であると捉え、実践を重ねてきました。今年度のグローバルセミナーは、参加型の実践により、どこまで民主的スキルを学習者に伝えることができるか、今後の課題は何かをともに考える2日間です。

1日目は、「生涯学習社会の構築」という視点から総合学習をとらえ、3つの問題提起から未来へ向けたあり方を探ります。

2日目は環境・平和・ジェンダーの分野で運動・啓発に関わってきた方々を招いて、それらの実践に「民主的スキルの育成」という新しい光を当てて再整理し、市民運動が「民主的なスキルの実践であり、そのトレーニングの場である」ためにはどうあるべきかを共に考えるワークショップです。

### ●ゲスト・パネラー紹介

#### ● 稲垣 有一：大阪市立築港小学校校長

ワールドスタディーズを創る会（95年まで活動、元運営委員）。大阪市教育センター（元所員）。全国同和教育研究協議会（元事務局次長）。

#### ● 小田 隆博：盛岡大学企画総務部

95年より岩手国際理解教育研究会事務局局長を務める。国際交流・国際理解教育の分野で、参加型ファシリテーターとして活動。

● 杉山 尚子：GLOBE INTERNATIONAL TEACHERS CIRCLE 英語教育を通して国際理解教育を推進するGITCで、教材作成、翻訳、研修を行う。「育自育児ワークショップ」を企画・実践。

## P R O G R A M

### 6月1日(土)「生涯学習社会と総合学習」

12:00 受付開始

13:00～14:00

全体会

14:00～16:00

研修1：ワークショップ

1. 「基礎学力の再考」

2. 「生涯学習社会の理念と参加」

3. 「生涯学習社会におけるNGOの役割と市民社会の形成」

16:00～17:00

全体会：ワークショップの成果の共有・ふりかえり・まとめ

### 6月2日(日)

#### 「生涯学習社会における民主的スキル」

10:00～12:00

分科会：テーマを選択してください

1. ジェンダー

2. 平和

3. 環境

12:00 昼食

13:00～15:00

分科会続き

15:00～16:00

全体会：各分科会の成果の共有・ふりかえり・まとめ

#### ● 稲色 恭子：フェミックス

フェミニスト・カウンセラー。従来の家庭科の枠を超え、様々なテーマを扱う雑誌「くらしと教育をつなぐWe」の編集・出版を行う

#### ● 赤石 千衣子：ふえみん婦人民主クラブ

「ふえみん婦人民主新聞」編集・出版。選択性夫婦別姓の導入、婚外子差別の撤廃などに取り組む。

#### ● 伊藤 武彦：トランスエンド研究会

和光大学。非暴力、平和的手段により紛争解決をめざすトランスエンド研究会。

● 木村 幸一郎：ジャパン・エコロジー・スクール都市動物研究会副理事長。プロのナチュラルリストとして行政、団体、企業、専門学校等の環境講座、キャンプ等の講師やディレクターを務める。

## グローバルセミナー2002 報告

### 「生涯学習社会の実現に向けて」

6月1日(土)、2日(日)の2日間、文京区民センター、シビックセンターにて、ERIC 運営委員をはじめ、たくさんの方のご協力のもと、開催しました。参加者はスタッフも含め25名ほど。わきあいあいとした雰囲気の中で行なわれました。

#### 第13回目を迎えて

##### 一 「生涯学習社会の実現に向けて」

過去13回をふりかえってみると、初期のグローバルセミナーは、海外の教育実践に学び、その蓄積を成果として出版してきたERICの歴史と変遷を表しています。ここ数年では、自分たちの蓄積と成果を出していこうという機運が生まれ、ERICが「学びつづける社会」と呼び、その実現を目指してきた「生涯学習社会」を取り上げることとなりました。

わたしたちは変化の多い時代に生きています。学齢期には習わなかったような新たな課題に日々直面する時代です。複雑で地球規模の課題を暴力を介さず、平和的に解決する方法をどのように学ぶことができるか、それが今回のチャレンジの内容でした。

#### 民主的スキルを考える

民主的で平和な社会をめざそうね、と口で言うのは簡単ですが、具体的に何をすることで達成できるのでしょうか。

ERICでは参加型手法を通して、民主的な社会をつくらうという試みを続けてきましたが、それは教育の営みにとどまらず、市民社会を形成しようと活動する人々によって広く担われてきました。それらの実践に「民主的スキル」という新たな光を当てて再整理することで、より多様で、より具体的な行動目標が見えてくるのではないのでしょうか。そして、スキルであるからには、繰り返すことによって伸ばしていくことができるのです。

「民主的スキル」という言葉は、初めてで戸惑った方も多くでしょう。ERICでも試験的に使い始めたばかりで、ファシリテーターにとってもチャレンジです。

話題提供やワークショップへの協力者、そして参加者の皆さんは、実践の場や方法は違っても「民主的な社会」のビジョンを持って活動してきた方々です。

わたしたちはこれまでどんな「民主的スキル」を身につけようとしてきたのか、そして今後は？

第1日目は、総合的な学習を生涯学習の視点から捉えなおし、学校教育、社会教育、市民団体がこれから身につけよう、育てようとしている「民主的スキル」とはどのようなものかを考えました。具体的に「生涯学習社会」と「学びつづける社会」や「社会的スキル」と「民主的スキル」を比較し深めたグループもありました。

第二日目は、環境やジェンダーの分野で活動してきた方々と、テーマについて過去の共有、現状分析、そして2030年にはこうあってほしいという未来のシナリオを作成し、そのために身につけたい民主的スキルを考えました。

#### 日常からの実践を目指して

2日間の共同作業の中で、いろんな気づきがありました。自分たちが行ってきた身近な行動、これからしようとしていたことも民主的な社会につながる「民主的スキル」だったのではないかと。みんなでいっしょに考えた「民主的スキル」は2日間で150を超えました。それぞれが考える「民主的スキル」は場面によって異なるでしょうし、もっとたくさんでてくるでしょう。

大切なことは、未来のビジョンを共有した上で、①参加者や学習者といっしょに身につけたい「民主的スキル」を考える。②「民主的スキル」を身につけるための行動計画を立てる。③いっしょに評価し、改善する方法を考える。この一連の作業を行なうプロセスそのものが、民主的であるといえないでしょうか。

